



# ジュゴン Vol.105

## ちゃんぷるニュース

**SDCC 2019. 7. 23**  
Save the Dugong Campaign Center

### CONTENTS

- 2/3 情勢・沖縄県は市民運動の先頭に
- IUCN 動き出す
- 4/5 ジュゴンでトレイン
- じゅごんの里ツアー報告
- 6/7 沖縄意見広告運動関東報告会
- わんさか通信★ジュゴンのわ
- コラムー鹿島神宮



今年3月、沖縄島北部の今帰仁沖でジュゴンBが亡くなりました。国の天然記念物である沖縄のジュゴンは、わずか3頭だけ確認されていましたが、そのうちの1頭でした。ジュゴンBの死因については、これからの解剖で明らかになると思います。ジュゴンA、Cの行方不明問題も含めて埋め立て土砂の投入以降に起こったことは事実です。東京新聞は、「辺野古に土砂投入後に、ジュゴンの食べ跡、ゼロに」と報じました。防衛省の調査で、はっきりと、「昨年12月以降、海草藻場でのジュゴンの食べ跡が確認されなくなった」と掲載しています。これはジュゴンBの子どもCが辺野古大浦湾から追い出されたからです。嘉陽に生息していたジュゴンAも工事の影響で行方不明になっています。ジュゴンだけでなく、辺野古・大浦湾は、世界が認めている生物多様性に優れた海域です。多くの尊い海の生き物が土砂投入で生き埋めになっているのです。命の重みを考えるべきです。

## 辺野古・大浦湾はジュゴンの故郷

民意を無視して、強行している埋め立て工事の責任は甚大です。IUCN（国際自然保護連合）で、3度も沖縄ジュゴンの保護勧告・決議を出したにもかかわらず、安倍内閣・防衛省は絶滅危惧種のジュゴンを保護する努力をせず、戦争のための軍事基地作りに必死です。このような事が許されるはずありません。

参議院選挙の投票日が近くなりました。辺野古新基地建設に反対する候補の勝利を勝ち取りましょう！沖縄県民は何度も選挙で辺野古新基地建設に「NO」を突きつけてきました。そして、玉城デニー知事を先頭に、多くの人たちが、政府に抗い続けています。政府はその結果を無視し続けていますが、諦めることなく、辺野古新基地建設に反対して、命の海を守るために、世界に発信し続けていきましょう。

赤土で濁った海を、もとの青い海に戻しましょう。

辺野古・大浦湾にジュゴンが戻ってきてくれるように頑張りましょう。

（首都圏 宮城韶子）

[WEB] <http://www.sdcc.jp/>

[EMAIL] [info@sdcc.jp](mailto:info@sdcc.jp)



稲嶺進・前名護市長を囲んで（5面）



ピースキャンドル行動にて（5面）

事務局から 情 勢

# 沖縄県は市民運動の先頭に

## 1. 動揺し、焦る日米両政府

埋め立て事業を始めて 5 年。土砂投入から 6 か月。未だに、辺野古沿岸域（浅瀬）ですらめどが立っていません。名護市安和（琉球セメント）や本部塩川港、辺野古ゲート前で抗議する市民の成果です。焦る沖縄防衛局は正当な抗議行動に対して、警備員に網を持たせて妨害（写真参照）。埋め立て土砂も業者の言い値で購入（防衛局単価表の 3 倍）。土砂に混入する「赤土」を指摘し、土砂検査を求める県の指導を拒否しています。やりたい放題です。

米国議会も辺野古新基地建設の大幅な遅れに疑問を出しています。連邦議会上院軍事委員会は国防権限法案で「在沖米海兵隊のガム移転を含む、沖縄、ガム、ハワイ、オーストラリアにおける分散移転について、取り組みの現状、費用などの報告」を国防総省に求めています（6月11日）。議会調査局も日米関係の新たな報告書で、「普天間移設問題は引きつづき、険しい政治的課題に直面する」と発表（6月14日）。昨年来の沖縄県の埋め立て承認の撤回、デニー知事の誕生、県民投票の成功、辺野古の軟弱地盤の問題など目途が立たない新基地建設問題を取り上げています。



## 2. 沖縄県に要請すること

IUCN（国際自然保護連合）種の保存委員会が沖縄ジュゴンBの死亡、A・Cの行方不明の問題を検討するために来日します。絶滅危惧種の沖縄ジュゴンが絶滅の危機にあることを IUCN に報告し、ジュゴン保護のアクションプラン作成が目的です。過去 3 度にわたる沖縄ジュゴン保護を求める IUCN 決議と、「沖縄ジュゴンを救え」の声は IUCN を動かしているのです。この動きは米国ジュゴン訴訟控訴審の公開審理に向けて有利な状況を生むに違いありません。この 8 月には、米国生物多様性センター（CBD）とともに、米国政府機関・海洋ほ乳類委員会、国家歴史保存諮問委員会に埋め立て工事による沖縄ジュゴンへの影響や、軟弱地盤問題で目途が立たない新基地建設の現状を報告し、ジュゴン訴訟への協力を求めます。

沖縄県は行政指導に従わない沖縄防衛局に、文書指導だけでなく、現場で闘う市民を激励する取り組みをすべきです。第 2 の撤回を行うべきです。来日する IUCN メンバーに協力し、ジュゴン保護のアクションプランをともに作成すべきです。また、翁長前知事が昨年 4 月に米国防総省に話し合いを求めた手紙「沖縄ジュゴン訴訟に関する利害関係者としての協議の要請」（18年4月16日）を再度送るべきです。ジュゴン訴訟に不利な「沖縄県や名護市と協議していない事実を認めたくない」国防総省は未だに返事を送って来ていません。



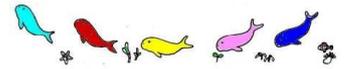
塩川港積み出し棧橋入り口  
ネットを張って抗議行動を妨害する帝国警備の警備員



琉球セメント安和棧橋に向かう赤土を積んだダンプの車列



# 沖縄ジュゴンをめぐる二つの国際的動き



日本政府が、民意を無視、法制度を押し曲げ、辺野古・大浦湾での米軍新基地建設を強行するなか、建設を止めるための取組みが国内外で展開されています。SDCC が関わってきた2つの国際的な動きを紹介します。

## ジュゴン B の死 国際自然保護連合が動き始めた

まず一つは、3月の今帰仁村近海でのジュゴンの死を受けて、IUCN(国際自然保護連合)の「種の保存委員会」の「海牛目類専門家グループ」(SSG)の動きです。IUCN/SSG は沖縄のジュゴンの生息状況を正式に再評価し、保護のための Action Plan を作成する取組みを開始しました。SDCC からの沖縄ジュゴンの危機的状況への対応の求めに、ジュゴンや海洋哺乳類の国内外の専門家が反応し、IUCN/SSG が動きだしたのです。

現在、SDCCの国際担当も関わりながら、過去5年間の沖縄ジュゴンの調査や保護の取組みの検証が始まっています。沖縄防衛局の辺野古・大浦湾、嘉陽、古宇利島等でのジュゴン調査は勿論のこと、沖縄県や環境省による調査や保護の取組み、そして NGO の調査も検証の対象です。この秋には、IUCN/SSG によるワークショップの開催や沖縄での現地訪問が予定されており、沖縄県や環境省もワークショップへの参加の意思を示しています。

IUCN が、科学的知見と沖縄ジュゴン個体群の保護の立場から、非常に厳しい評価を行うことは確実です。辺野古新基地建設によるジュゴンへの影響は勿論のこと、沖縄全体におけるジュゴンの生息状況や保護対策の問題も指摘されていくはずですが。

## 米国連邦議会が辺野古の検証を開始した

二つめの動きは、国防総省の活動を決定する米国連邦議会の国家防衛権限法案に関するものです。6月27日に連邦議会上院で可決された2020年度同法案の1255条「インド・太平洋地域における米軍の分散配置についての報告」は、国防総省に対して、在沖米海兵隊のガム移転を含む、沖縄、ガム、ハワイ、豪州において進められている「分散配置」についての検証を求め、また米国会計検査院に対しても検査報告を求める内容になっています。

「辺野古」という文言こそありませんが、辺野古新基地もこの法案の対象になっているのは確かです。このような具体的な検証や検査の要求は、2018年度国防権限法や2019年度国防権限法にはありませんでした。

この1255条の背景には、「軟弱地盤の問題」や知事選挙や県民投票で示された「県民の反対の声」があると言えます。そしてベテランズ・フォー・ピース琉球・沖縄など米国市民社会が、これらの点を指摘しながら、連邦議会や米国会計検査院に対してロビー活動を行ってきた成果だと言えます。

SDCC も米国市民団体に文書や情報を提供してきました。1255条で注目されるのは、「分散配置」の費用、各地域における訓練施設等の適切性、米軍のプレゼンスに対するホスト国、地域コミュニティ等の評価、分散配置のための施設建設の現状など、詳細な報告と検証を国防総省に対して求めていることです。また、検証後、現在の「分散配置」をそのまま実施していくのか、それとも修正が行われるのかを明確に表明することを国防総省に求めています。修正するのであれば、アラスカ、ハワイ、アメリカ国内、日本、オセアニアにおける基地施設の代替地を示すなどの修正の提案を両院の軍事委員会に国防長官が提出することを求めています。

今後、上院の国防権限法案は、下院の国防権限法案と両院協議委員会では一本化され、その一本化された法案がそれぞれ両院で採決され、大統領の承認の手続きを経て法となります。その過程で1255条の文言に変更があるかもしれませんが、上院で可決されたこと自体、大きな意義があるといえます。

このIUCNと米国連邦議会の動きは、米国での「ジュゴン訴訟」の今後の展開や、関連する米政府海洋哺乳類委員会(MMC)や国家歴史保存諮問委員会(ACHP)への働きかけにおいても重要となります。また埋立て承認撤回の取り消しをめぐる沖縄県の訴訟にも影響を持つかも知れません。なにより、市民によるキャンプ・シュワブや安和棧橋での抗議行動、国会前でのスタンディングなどの取組みに励ましを与えられます。多くの市民と情報を共有していきましょう。(国際担当 吉川秀樹)

## ニューヨークからのお便り



6月23日、ニューヨークでも慰霊の日の集いがもたれ、50人近くが集まりました。幼いころ沖縄戦を体験した方や、ベテランズ・フォー・ピースニューヨーク支部の方からの心揺さぶるスピーチは、日米の平和を祈る心をつなぎました。

# ジュゴンの日にジュゴンでトレイン！in大阪

SDCCでは、毎月15日をジュゴンの日として、沖縄ジュゴンを広める機会にしています。そして2009年から、年に一度は「ジュゴンでトレイン！」と題して大阪環状線をひとめぐり、ジュゴン保護をアピールするアクションをしています。今年も6月15日に、京橋駅と天王寺駅前でもマイクアピールと署名集め、電車内では胸にメッセージボードを掲げて、サイレントアピール。SNSなどの呼びかけに応じて、初参加して下さった方もあり、にぎやかにアクション出来ました。「辺野古の工事はひどすぎる！ありえない！」「沖縄の問題じゃないです。私たちの問題ですよ！」と署名してくれたり、「応援してます！」とカンパをくださったたり。天王寺駅前では強風に悩まされ、大阪駅前の行動は大雨で中止というアクシデントもありましたが、ジュゴンの姿に注目が集まり、多くの方に辺野古のことを伝えることができました。



大阪 京橋駅を出発



電車の中はサイレントアピール

## あなたの街でジュゴンでトレイン

大阪だけでなく、あなたのいる場所でアピールしてみませんか？全国で同じ日にジュゴンのこと、基地のこと、平和のことを考えましょう！と呼びかけたところ、沖縄（宮古島、辺野古、本部）、鳥取、三重、横浜、東京、そしてハワイから、写真とメッセージが届きました。みんなの声でジュゴンを守りましょう！（関西 山根富貴子）



辺野古テント村 にゃんこもいます



宮古島から



ハワイから



東京メトロで  
ジュゴン帽



カー隊の  
仲間から



鳥取から お孫さんと一緒に



東京から 大騒ぎキャンペーンはがきも広がっています



# 2019第14回じゅごんの里ツアー



6/28～30に、23名（一部参加9名）でじゅごんの里ツアーを開催しました。今年は、酷い現状を突き付けられると同時に、出会った方々に励まされ、あきらめない強さを学ぶツアーになったと思います。米軍ヘリの窓枠落下事故のあった普天間第二小学校の校庭には、シェルターが造られていましたが、これで子どもたちを守れるのかという代物。小学生に米軍の危険から自主避難、自己責任をと仕向ける国っていったい何なのか？大浦湾にはフロートが張り巡らされ、少しずつ土砂投入が続き、護岸工事の強行は続いていました。その様子を目の当たりにし心が痛み、清らかな海を取り戻したいと強く思う。稲嶺前名護市長のお話しは聴き応え充分で、こんな市長が全国に増えたら、地域からこの国は変わると勇気づけられました。3日目は2つのコースがあり、沖縄愛楽園見学コースでは、ハンセン病を通して偏見・差別を深く学び、紅型体験コースでは、伝統文化を楽しみました。ここでは、稲嶺さんとの交流とその他写真で報告します。

報告は次号にも続きます。

## ☆報告☆ 稲嶺さんとの交流会

### 沖縄の勇気と希望をもらう

稲嶺さんは2010年市長就任以来8年にわたり一貫して基地再編交付金に頼らぬ町づくりを進めてきました。

就任早々予算化されていた交付金を、国は基地反対の姿勢への嫌がらせと圧力のためにカット。それに対して職員と共に事業を精査し支出を切り詰める一方、他の補助金等の活用により事業を継続し、以降市財政の健全化を進めてきました。

常態化していた特定企業と市の幹部との癒着を断ち、透明で市民目線の市政に取り組み、子育て支援や教育環境の整備、農業等の小規模事業者支援事業等で地域力の再生を図りました。市職員とは率直な意見交換により意欲とアイデアを引き出し、議会に対しては徹底した討議による議決を目指したそうです。

まさに民主主義と地方自治の創生だと思いました！

廃藩置県以来本土政府は沖縄に理不尽なことをしてきたに尽きると指弾。子ども達の未来のために新基地建設は許さないとの決意を述べ、参議院選で多くの仲間を国会に送ろうと呼びかけました

ボランティアの合間に駆けつけた稲嶺さんは、ハリのある力強い声でお話をされ予定の1時間はあっという間。もっともっと聞きたかったです。

お話が終わった時、20名の参加者全員の「辺野古新基地を造らせない」という思いが一つになり、さらに強固になったことを強く感じました。

私たちに勇気と希望をくれた稲嶺さんに感謝です。

(首都圏 蟹江由美子)



浜のテント村で相馬由里さんから話を聞きました



普天間第2小学校の「シェルター」前にて

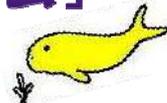
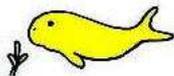
## ☆感想☆ 初参加者から

常々、沖縄の人々の情熱・勇気・行動力に比し、本土人はなんと無気力無関心なのかと思ってきた。ツアーで出会った方々の話を聞き、得心がいった。普天間基地にオスプレイが強行配備されて以降、抗議行動を続けておられる赤嶺さん、2期8年間基地再編交付金に頼らず、「すべては子どもたちのために」市政作りされた稲嶺さん、美しい自然を守るために辺野古基地はいらないとテント村を拠点に活動される相馬さん、シュワブゲート前で2004年以来毎週土曜ピースキャンドル行動を続けておられる渡具知さん一家、そして周りの人々一権力による差別と抑圧と闘い続ける長い歴史の上に、今の優しくたくましい沖縄の人々がいる。希望の火をつなぎたい。

(中井万里子)

報告

# 「第10期沖縄意見広告運動関東報告集会」に参加して



6月15日、日本教育会館で「第10期沖縄意見広告運動関東報告集会」が開催されました。今年の意見広告は9日付け紙面に琉球新報、沖縄タイムス、毎日新聞、東京新聞の計4紙に見開きで掲載され、賛同は1万8663件で、過去最多となりました。

集会は、意見広告監修で参議院議員の伊波洋一さんから第10期意見広告の報告、ヘリ基地反対協議会共同代表の安次富浩さんから沖縄現地報告、意見広告全国世話人でシンガーソングライターの川口真由美さんのパワフルな歌声で会場は大いに盛り上がりました。

特別ゲスト講演として、ジャーナリストの金平繁紀さんから「沖縄に犠牲を強いるこの国のあり方、民主主義を問う」と題してお話がありました。1995年の少女暴行事件の際に、沖縄に取材に行ったことなど沖縄との関わりについて話されました。「辺野古の工事強行・K8からの土砂の陸揚げなど無法国家。報道規制も進み、ドローンが禁止され埋め立ての実体がわからなくなる。沖縄差別は戦前と同じ」「日米地位協定を変えられず、なぜ憲法を変えるのか?」「人ごとだと思っている人が多数。香港と違うところ。身近な人と話ができるか?どうせやるなら楽しくやろう」と話されました。

最後に事務局より第11期意見広告について提起があり、本集会をもってスタートすることが確認されました。

会場満杯の参加者は、辺野古新基地建設阻止の決意を固めました。

(首都圏 三村昭彦)



## 伊江島団結道場がリニューアル ～ 記録を残し記憶を伝えるために ～



記録を残し記憶を伝える。その中で「場所」の保存は大きな意義がある。

伊江村真謝区に建っている「団結道場」は「伊江島土地を守る会」によって1967年に建設が計画され、米軍による暴力的な弾圧、妨害をも乗り越え1970年米軍演習場入口に完成した。

1961年阿波根昌鴻さんを代表として結成された伊江島土地を守る会は、米軍の「銃剣とブルドーザー」による理不尽かつ暴力的な土地収奪に立ち向かい、繰り返される弾圧に対抗するためにはしっかりとした理論が必要であるとの立場から学習にも力を入れ、平和を守り、学び合う場として、また闘いの支援者の集いの場所として建設しその役割を果たしてきた。団結小屋や監視小屋ではなく「団結道場」と名付けられた所以でもある。

しかし、建築からほぼ50年を迎える団結道場は、沖縄の過酷な気象の中でコンクリートのはく離、落下等も見られ、昨年、伊江島団結道場保存会が結成され、伊江島土地闘争の歴史と其中で果たしてきた役割及び平和運動の象徴としての重要性を踏まえ、次世代に伝えるため、保存に向けた工事が進められてきた。



今年3月、SDCCを含め、多くの団体、個人の資金協力を得て、ほぼ建設当時の姿そのままに保存工事が完成した。

島ぐるみ闘争の原点、非暴力の戦いの歴史を学ぶ場として是非訪れていただきたい。(中縄 高垣喜三)

鹿島神宮 - ~ころむ・ころム~

戻り梅雨も明け、沖縄は暑い夏空である。いよいよ参議院選挙も大詰め、朝夕の手振り行動に参加する人も多くなった。名護市長選敗北後、連勝続きのオール沖縄だが、果たして今回も辺野古新基地建設反対の民意が示せるのかどうか。心配なのは本土国民である。国の未来が主権者たる国民にかかっているにも関わらず、自民党の支持率が高いのはどうしたことか。

去る5月31日、東京上野水上音楽堂で行われた「戦場ぬ止め音楽祭」に参加。「渋さ知らずオーケストラ」という東京で音楽や演劇している連中からの誘いであったが、その演劇に金城実先輩も出演。下駄踊りを披露して存在感をアピールした。だが、沖縄と本土との連帯がうまくいったかどうかわからずじまい。

その翌日のこと、私は成田空潜に向かう前に山城博治を誘って鹿島神宮に立ち寄った。鹿島神宮に博治を案内したのは他にもない。そこが、全国神社組織の中でも関東圏一を誇る神宮であり、自民党支持層の拡大拠点であり、歴史を知らない若者達に国体護持思想を植え付ける

拠点だからであった。

「さあ、これから敵陣に乗り込んで視察する。敵の正体もわからずに選挙に勝てるわけがないからな」

二人は鹿島神宮の大鳥居のど真ん中を通って、境内に入った。博治は「神社に来るのは初めてです」という。土曜日ともあってか、大木に覆われた神宮内の荘厳な社や拝所には朝から大勢の参拝者であった。入るとすぐに「日本の息吹」という令和元年を祝う日本会議の月刊誌が置かれ、参拝者が次々とそれを手にしていった。令和を喜び、神道にしたがい手を打ち礼をしているが、そこにいる国民はそれを異常とっていない。社務所に「茅の輪神事」の案内があったが、それがヒミコの世直しによって伝えられたジュゴン信仰に由来するという歴史を知る人はいない。博治には、せめてこの現実を見て欲しく案内したが、果たして、ジュゴン信仰のことを少しでも理解してくれたかどうか。

海勢頭豊 (うみせど ゆたか : SDCC 共同代表)

① わんさか通信 ★ ジュゴンの①

海を越えて繋がる想い

じゅごんの里ツアーが終了した翌日、更に南へ300キロの宮古島に寄って下さった三人の先輩がおりました♪。

私事で泊まりのイベントに参加が難しく御無沙汰してしまっていたので久々の再会は嬉しかったです。

ツアーの世話役でお疲れだと思いましたがパワーあるお話が聞けて、こちらが元気を頂きました。

自然を大切に、平和な未来を願い、  
自分以外の人の幸せも真剣に考える。

このままでは駄目だと思ふ事に声をあげる、伝える。

自分にできる事を行動に移す。

諦めず続ける事。

笑顔を忘れない。

等々改めて刺激を受けました！



お礼を言うのは私の方なんですがお土産まで頂き恐縮です。

辺野古の基地建設工事が止まらない問題も、「どうしたらいいのー」と投げ出したくなる事もあるけれど、諦めず声をあげる！これが大事。

愛をもってこれからも闘いましょう。

(沖縄 小平裕美)

## <首都圏>

### ・2019 ZENKO in 東京

日時:7月27日(土)10:30~28日(日)17:00

場所:日本教育会館、星陵会館 他

詳細は <http://www.zenko-peace.com/2019zenko>

### ・「辺野古新基地建設の強行を許さない! 防衛省抗議・申し入れ行動」

日時:8月5日(月)18:30~19:30

場所:防衛省前(JR 地下鉄市ヶ谷駅徒歩7分)

主催:辺野古への基地建設を許さない実行委員会

## 《 今後のスケジュール 》

## <関西>

関西事務所

・じゅごん茶話会 7/25(木)8/29(木) 14時~

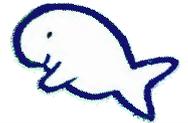
・宮城アキノさんお話し

8/11(日)ひとまち交流館 18:45~ 800円

8/12(月・休)神戸市勤労会館4F(三宮)14:00~ 800円

・大阪アクション5周年の集い 牛島貞満さん PLP 会館

8/25(日)14時~ 一般500円 学生300円



## 牧志 治 写真展 “子や孫に残したい海” ~~辺野古・大浦湾~~



会場:レンタルスペースチャクラ

大阪市北区天神橋3丁目7-29(天神橋筋商店街 扇町駅と南森町駅の間)

9月21日(土)13時~19時 9月22日(日)11時~18時 入場無料

生物多様性の海辺野古・大浦湾が今、新基地建設で壊されようとしています。

辺野古・大浦湾一帯をフィールドに撮影している牧志治さんの素晴らしい写真をぜひ観に来て下さい。



## 首都圏

## 「平和 沖縄 ちゃんぷるまつり」に参加して

6月9日、品川区立スクエア荏原イベントホールで、「平和 沖縄 ちゃんぷる祭り」が開催されブース参加しました。ワンドリンク付きの参加協力券で、ドリンクに引き換え、ゴーヤチャンプルーや焼きそばなどの各種おつまみを購入してテーブルを囲み、家族連れで賑わっていました。

ステージでは、子ども獅子舞や、琉球舞踊、沖縄民謡などが披露され、手拍子などで盛り上がっていました。また、展示では辺野古問題や原発事故についてのパネルが展示されていました。毎年開催されている「ちゃんぷる祭り」は老若男女が集い、「平和 沖縄」をキーワードに地域の人々が集う場となっています。

来年も是非参加したいと思えます。

(首都圏 三村昭彦)



私のひと言

美しい辺野古の海で優雅に泳ぐじゅごんの映像と、傷付いた無残な姿で発見された映像が脳裏で重なり、誰か何をどうしたいんだろう?と怒りの気持ちでいっぱいです。

都通:名前

HELP!



呼びかけ団体: ジュゴン保護キャンペーンセンター  
〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番21  
京橋ベース (旧野口ビル) 302号  
TEL/FAX 06-6353-0514 <http://www.sdcc.jp/>

## 防衛大臣に、基地の工事中止と、ジュゴンACの調査を求める大騒ぎキャンペーン継続中です!

キャンペーンハガキにあなたのメッセージを一言書き添えて送ってください。下記事務所に連絡いただければ、ハガキをお送りします(送料・切手代カンパ歓迎です)。ぜひ、まわりの方にも広げてください!

← イベントで書いていただいたメッセージです

### Editor's Note

ジュゴンの里ツアー(6/28~6/30)の後、7/2 朝まで名護で延泊して、安和味橋と本部岬川港の土砂搬出阻止行動に参加しました。琉球セメント安和岬山は、文字通り禿山になって無残な姿をさらしていました。そこから何百台ものトラックが赤土を積んで、安和味橋こやってきます。桟橋ゲートでは数十名がぐるぐる歩いて行動。ゆっくりゲート前を駆転する「GO!GO!ドライブ隊」もいます。こうした粘り強い行動が工事を遅らせています。本土での行動が重要と改めて感じました。(松島洋介)

ジュゴンちゃんぷるニュース VOL.105 2019年7月23日発行

ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)

〒162-0815 東京都新宿区土土八幡町2-2-1

第1千代田ビル301 なかま共同事務所内 TEL/FAX 03-5228-1377

○ <http://www.sdcc.jp/> ○ [info@sdcc.jp](mailto:info@sdcc.jp)

(関西連絡先) 〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番21号京橋ベース

(旧野口ビル) 302 TEL/FAX 06-6353-0514

## 会費(2000円)&カンパ振り込み先

郵便振替:

加入者名 ジュゴン保護キャンペーンセンター

口座番号 00140-9-660199

他行、コンビニからは: ゆうちょ銀行 ○○八支店

口座番号 普通 8159084

\*ちゃんぷるニュース購読会員募集中です。年会費2000円で年6回ニュースをお届けします\*  
お問い合わせは、上記事務所まで。ニュース購読で、あなたもジュゴンサポーターに!